

北校タイムズ



教育目標：五者の連携のもと、社会の創り手を育む。

～「輝く北っ子プラン」の3プロジェクトの取組から～

五者とは、○子供 ○学校 ○家庭 ○地域 ○行政 / 3プロジェクトとは、○たくましさP ○かしこさP ○美しさP

全国学力・学習状況調査の平均正答率の比較

※全国を上回る○(+4以上◎)

	国語	算数	理科
全 国	65.6	63.2	63.3
熊本県	65	62	63
本 校	○	◎	◎

全国、県の平均を上回り、成果が上がっています。

去る四月十九日(火)、六年生を対象に全国学力・学習状況調査を行いました。先日、全国や熊本県の結果が公表され、あわせて本校の結果がわかりましたので、お知らせします。各教科の平均正答率は、三教科とも全国、県平均を上回っていました。特に、算数と理科は、大きく上回っていました。また、各教科の内容や評価の観点別に比較しても、すべてにおいて良好な結果がで

全国学力・学習状況調査の結果が

公表されました！

昨年度の十二月に行われた熊本県学力・学習状況調査で課題と認められる部分が改善しています。さらに高みを目指すための改善のポイントをまとめると次のようになります。

<国語>

- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。
- 必要なことを記録したり質問したりして話の中心を捉える。
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。
- 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像する。

<算数>

- 目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする。
- 日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにする。
- 分類整理されたデータについて、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにする。
- 図形を構成する要素に着目し、図形の意味を理解したり、図形の性質を確かめたりすることができるようにする。

<理科>

- 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする。
- 観察、実験などで得た結果について分析して解釈することで、妥当な考えをつくりだすことができるようにする。

<質問紙調査から>

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」が、全国平均を上回っている。委員会活動、縦割り活動、係活動等に主体的に取り組むことができるように、学年に応じて工夫し、それらの活動や行動の意味、よさを考えたり伝えたりする指導を継続していく必要がある。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている(学校の授業の予習や復習を含む)」が、全国平均を上回っている。これまで家庭学習の充実に取り組んできた成果が表れている。必要な内容を自主学習等で進んで行おうとする意欲を高め、内容を更に充実できるよう取り組んでいく。
- 「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい」が、全国平均を下回っている。理科の授業では、考えを深めたり広げたりすることのおもしろさや必要性を伝えるような授業を目指し、主体性の育成に取り組む必要がある。
- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」が、全国平均を下回っている。グループでの話し合い等で考えを出し合ったり自分の考えをまとめたりする活動を意図的に設定し、主体的な学習態度を育成していく必要がある。

また、質問紙調査結果を全国平均と比較し、顕著な結果が見えたことについてまとめ



これらの結果は、あくまでも本校の平均値ですので、個人別で見ると残された改善点もあります。今後は、個別の課題の解決を目指して、反復学習や創意工夫をした取組を展開していきます。



六年生 修学旅行を実施！

貴重な体験活動ができました。

去る九月二十九日、三十日に、六年生は長崎・佐賀方面に修学旅行に行ってきました。感染症拡大防止に気をつけながらではありましたが、それぞれに学びを広げ、深めることができ、たいへん意義深い学習機会になったと思います。各学級から一人ずつ感想を紹介します。

一組 坂本 万智

修学旅行で一番心に残ったのは、溝浦さん(語り部)の講話です。私は、日本の戦争被害にばかり注目していたけれど、日本も外国に攻め入り、強制労働をさせていたことを知りました。日本が戦争を始めていなければ、原爆によって亡くなつたたくさんの方々は、幸せに暮らしていたかもしれせん。戦争は二度と起こしてはいけないと思いました。

原爆から生き残った人々は、放射線によって病気になることが多く、飲み水や食べ物にも苦しんだことを知りました。私たちは、健康に暮らし、当たり前のように

うに食べ物を手に入れることができます。それは、本当はともありがたいことだと気づきました。「いただきます」「ごちそうさまでした」を言うときには、感謝の気持ちを込めて言うようにしたいです。最後に、戦争のことを伝える方々は高齢になっていきます。これからは、若い世代の私たちが、戦争のおそろしさをしっかりと伝えられるようにしようと思いました。

二組 櫻井 萌香

私は、修学旅行を通して、普段はあまり考えることのない原爆や災害のことなどを深く考えるきっかけとなり、たくさんすることを学びました。一日目の平和学習を通して、

本当に原爆を経験した人にか分からないことがたくさん知れました。特に心に残ったのは、原爆で起こった「熱風」についてです。人が軽く飛ばされてしまうほどのとても強く強い風、鉄が溶けてしまふほどの何千度の熱で人々が亡くなつてしまったことに驚きました。事前学習では、「熱風」について詳しく調べてい

なかつたけど、亡くなつてしまった人々は痛い、苦しいと思う余裕もなく灰になっていかれたと考えると恐ろしいです。私たちが住んでいるこの日本であつた出来事を忘れないように、これからは私たちが後世に伝え続けていきたいです。

三組 黒田 真央

私は、修学旅行に行つて、たくさんのことを体験したり、学んだりすることができました。

まず、集団で行動することです。自分のやりたいことをするのではなく、班の友達と相談して行動したり、集合時間を守ったりすることを心がけることで、周りに合わせることの大切さを学びました。

次に、原爆資料館では、熱線によって溶けてくつついた六本のガラスのびんや、原子爆弾によって被害を受けたたくさんの方々の写真を見て、原子爆弾が人々に与えた被害がとてつ大いというのを、改めて実感することができました。

宇宙科学館では、風のテールで、風がもっている力を

実際に体験したり、ムーンプウオーークで月面歩行の疑似体験をしたりすることができました。普段できない体験ができてよかったです。

また、がまだすドームでは、平成大噴火シアターと島原大変劇場を見て、「自然はともて尊くしておそろしいものなんだな。」と思いました。

私は、この修学旅行で、戦争について深く考えました。今、私たちは幸せに暮らしているけれど、世界中を探せば、戦争で苦しんでいる人がたくさんいます。そのことを、遠い国の話だと思わずに、もっと身近に考えて生きていこうと思います。

新型コロナウイルスの感染対策をしながらだったけれど、戦争のおそろしさや平和の尊さ、自然災害のこわさなど、さまざまなことを考えるきっかけになりました。修学旅行に行けて、本当によかつたなと思います。

四組 楠本 彩月

私は修学旅行で学んだことが二つあります。一つ目は、平和学習で学んだ「原爆の恐ろしさ」と平和の大切さです。平和講話では、四歳六か月の

時に被爆した溝浦さんの話を聞きました。原爆が炸裂し、あつという間に多くの人が原爆の熱風や熱線で亡くなったことや原爆症で長い間苦しんだ人がいたことなどを聞いて、原爆の恐ろしさや悲惨さを知ることができました。また、ボランティアのガイドさんたちと一緒に回つた原爆資料館や爆心地、神父さんになる学校では、ガイドさんの説明や話を聞き、質問などをして、当時の状況を知ることができました。二つ目は、考えて行動することです。宇宙科学館やがまだすドームでは、他の学校の生徒やお客さんのことも考えたり、時間配分を意識したりして行動しました。またホテルでは、同じ生活班の人たちと静かに過ごすことができました。修学旅行を通して、多くのことを学ぶことができました。修学旅行に関わつた人や家族に感謝をして、学びをこれからにつなげていきたいと思っています。

